

# 令和7年度 学校自己評価書

小美玉市立竹原小学校 校長 松代 由美

## 1 今年度の取り組みの概要

学校経営の基本方針を「自ら考え行動できる、楽しく元気な学校づくり」とした。基本方針を実現させるため、①「主体的・対話的に学び、分かる喜びを得られる学校」②「あいさつから始まる温かい人間関係で満たされる学校」③「活躍のチャンスがあり、何事にもチャレンジできる学校」④「保護者や地域と連携・協力し、環境の整った美しい学校」の各項目について具現化に努める。そして特に「確かな学力の育成」「豊かな心の育成」「活力の育成」について、達成目標を設け具体的な方策の実践に取り組む。

<達成度 A：十分に達成 B：おおむね達成 C：達成せず D：課題が残る>

### ◎ 組織目標 1 についての具体的な取り組み

組織目標 1			
達成目標	具体的な方策	実施結果	達成度
<b>確かな学力の育成</b> ○主体的、対話的な学習を通して、確かな学力を育成する。	◎ペア・グループ活動の充実 ・対話することで主体的に学ぶ授業づくり ・ICTを活用した伝え合う活動の充実 ・課題解決に向けた協働的な学び ◎特別支援教育の充実 ・インクルーシブ教育の推進 ○読み取る力・筋道立てて考える力の育成 ・探究的な学びの取組 ・国語科モジュール時間の活用 ◇自分の考えを表現できる 80%以上 ◇ペア・グループ活動を行うと授業が分かりやすい 85%以上	・校内相互授業参観や公開授業の参観を計画的に実施することを通して、協働的な学びへの授業改善を図ることができた。 ・算数科において、見通しをもち、筋道を立てて自分の考えを説明することができる児童の育成に重点をおき、校内研修を進めてきた。 ◇「自分の考えを表現できる」肯定的な回答 72.5% ◇「ペア・グループ活動をすると授業が分かりやすい」肯定的な回答 91.9%	B
<b>豊かな心の育成</b> ○「あいさつ、あとしまつ、ありがとう」を励行し、友達を認め、人に感謝することのできる豊かな心を育成する。	◎元気なあいさつの実践 ・児童主体のあいさつ運動 ◎絆づくりと居場所づくり ・縦割り活動（キッズグループ）の充実 ・安全安心な風土の醸成 ○互いのよさを認め、自分のよさを発揮できる場の工夫 ・特別活動の充実 ○感謝できる心の育成 ・考え、議論する道徳 ◇あいさつが自分からできる 85%以上 ◇縦割り班（キッズグループ）での活動が楽しい 80%以上	・元気なあいさつができるように、5月と11月に児童の代表委員や学校運営協議会委員、竹原地区民生委員などの地域の方が正門前に立ってあいさつ運動を行うことができた。 ・昨年度まで欠席が多かった児童の欠席日数が減少してきている。また、その児童の特性に応じて外部機関との連携を図り、居場所づくりに努めてきた。 ◇「自分からあいさつすることができる」肯定的な回答 88.7% ◇「キッズグループの活動が楽しい」肯定的な回答 88.7%	A
<b>活力の育成</b> ○小さなことも「認め、ほめ、ともに喜ぶ」ことを通して、一人一人の持ち前を育む。	◎活躍の場づくり ・一人一役の係、当番活動 ・実行委員会活性化 ・積極的な生徒指導 ◎運動の日常化 ・外遊び奨励 ○保健安全教育の充実 ・健康教育の推進、充実 ・安全教育の徹底 ○基本的生活習慣の確立 ・早寝・早起き・朝ごはんの推進 ◇学校が楽しい 90%以上 ◇外遊びを積極的に行っている 80%以上	・学級活動や学校行事を通して、小さなことも「認め ほめ ともに喜ぶ」ことで、一人一人の持ち前を育み、自己肯定感を高めることができた。 ・外遊びを奨励し、教職員も一緒に遊ぶことで積極的に運動をする児童が増えた。 ◇「学校が楽しい」肯定的な回答が 93.0%であった。 ◇「外遊びや運動を積極的に行っている」肯定的な回答が 85.4%であった。	A

## 2 今年度の成果と次年度に向けた課題

### ○学力向上について

確かな学力の育成として、算数科を中心に「見通しをもち、筋道を立てて自分の考えを説明することができる児童」を目指して取り組んできた。校内研修においては、見通しをもつことや筋道を立てて自分の考えを説明することに力を入れ、協働的な学習への授業改善を図った。また、児童の自己肯定感を高めるように授業展開や学習活動を工夫するように推進した。

本校の県学力診断のためのテストの結果を受け、補充学習を進めている。また、各教科において、自分の考えを表現すること（アウトプット）に抵抗感がある児童が多く、課題が残っている。

次年度は、文章表現を中心にして学力の向上を図っていく。今後も児童の誤答傾向の分析などをさらに進め、授業改善を図る。

### ○豊かな心の育成について

今年度の組織目標「児童の自己肯定感の向上」に基づき教育活動を展開した。「あいさつ、あとしまつ、ありがとう」を励行し、友達を認め、人に感謝することのできる豊かな心を育成することに取り組んできた。挨拶運動については、代表委員が挨拶運動を行ったり、11月には各学年の児童が正門前に立って挨拶運動を行ったりしてきた。学級においては、絆づくりと居場所づくりを行い、自己肯定感を高めるようにしてきた。そして、学校ボランティア等でお世話になっている方々に感謝の気持ちを伝える場を設けることで、感謝する心の育成を図ってきた。また、人権を意識した学校生活について教職員間で確認し、人権感覚や人権意識をもつことで、児童に人権を大切にすることを伝えられるようにした。道徳の時間には、自分の考えを出し合える雰囲気づくりや肯定的に意見を聞く姿勢の指導を通して、道徳性の向上に努めた。幼小連携では、よつば幼稚園と定期的に連絡調整を実施し、低学年や6学年との交流学习等を行ってきた。

次年度は、より児童主体の校外学習や運動会、田植え・稲刈り等の学校行事を実施し、一層の自己肯定感の向上を図ると共に、各集団の絆を深めていきたい。

### ○活力の育成について

活躍の場づくりとして、「小さなことも『認め、ほめ、ともに喜ぶ』」ことを通して、一人一人の持ち前を育む」として取り組んできた。感謝のつどいでは、日頃からお世話になっている方々へ感謝の気持ちを伝えることができた。また、集会に向けて児童主体での活躍の場を設定し取り組んできた。運動の日常化については、持久走記録会やなわとび集会に向けて児童が自分の目標をもって取り組み、全校児童が真剣に練習したり、記録会や集会に臨んだりすることができた。休み時間には多くの児童が運動場に出て、活発に運動に取り組む姿が多く見られるようになった。保健安全教育では、外部講師を招いて「いのちの安全教室」等を実施しながら、教育効果を高めることができた。

基本的な生活習慣の確立については、ほぼ基本的な生活習慣が身に付いているが、食習慣に課題が残った。好き嫌い無く給食が食べられるよう栄養教諭や家庭と連携し、食習慣の改善に努めていきたい。

## 3 保護者や地域への皆様へ

○ 学校経営の基本方針を「楽しく元気な学校づくり」とし、学校全体として「児童の自己肯定感の向上」を組織目標とし取り組んできました。挨拶については、元気な挨拶ができるように、5月、11月に児童、学校運営協議会委員、民生委員や地域の方々にご協力いただき、正門前での挨拶運動を行ってきました。学級においては、小さなことも「認め、ほめ、ともに喜ぶ」ことで、絆づくりや居場所づくりを行い、自己肯定感を高めるようにしてきました。また、学校ボランティア等でお世話になっている方々に感謝の気持ちを伝える場を設けることで、感謝できる心の育成を図ってきました。今年度は、学校行事や月1回の縦割り班での遊びを通して、各集団の絆を深めてきました。また、防災フェスティバルを開催し、保護者や地域の方々の協力を得ながら、学校の教育活動を充実させ、児童の成長を促す活動に積極的に取り組みました。

○ 児童の学校生活アンケートでは、「学校が楽しい」について肯定的に答える児童が93.0%。また、「早寝・早起き・朝ごはんを実行できている」については、肯定的にできていると回答した児童が85.4%でした。基本的な生活習慣の定着が見られています。

○ 学校運営協議会委員の方々からのご意見

・学校側の管理職の先生方との連携はできているが、他の先生方との連携が十分ではないと感じて

いる。今後、アンケートで意見を聞く、話し合いの場を増やすなど工夫をしていきたいです。

- 学校運営協議会委員として2年目で、現在は基盤づくりの段階にあるように思います。
- 今年度は、学習支援ボランティアや防災フェスティバルを通して、学校運営協議会の役割や取組を知ってもらうよい機会だと思いました。
- 先生方からもいろいろな意見やアイデア、声掛けをしていただき嬉しく思っています。

日頃より本校の教育活動に深いご理解とご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。貴重なご意見をありがとうございました。今後の教育活動につなげていきたいと考えております。